

■■メールマガジン「静岡県防災」第24号■■

“あの時”を知らない若者が多くなった「阪神・淡路大震災」

○若い世代は知らない「阪神・淡路大震災」

1月17日、阪神・淡路大震災から28年が経ちます。

直接、被災した方を除くと、当時中学生以上すなわち現在40歳以上の人でないと、震災に関する明確な記憶がないものと思われまます。

「東日本大震災」以降、津波が注目されがちですが、「阪神・淡路大震災」を振り返ると、やはり地震動を軽視する訳にはいきません。

この震災では、大きな揺れによる建物倒壊と延焼火災が目立ったことから、建物の耐震化と火災対応が課題・教訓となりました。

また、自主防災組織やボランティアによる地域防災活動の重要性も再認識されました。

○自助・共助の原点

当時、本県は自主防災組織の先進県として全国から注目されましたが、歳月の経過とともに、地域防災活動に対する参加意識の低下が懸念されています。

改めて、地震動への備えを確実にするとともに、火災が発生した場合の初期消火、さらには、初期消火ができなかった場合の緊急避難を的確に実践できるよう、自助・共助を再検証する必要があります。

地震による火災は火災保険では補償されませんので、地震保険・共済への加入も大切です。

※契約している保険の内容を確認しましょう。

○「南海トラフ地震」への備えを万全に

「南海トラフ地震」が発生すると、地震動、火災、津波…様々な災害が想定されます。

令和元年度から運用が開始された「臨時情報」も併せ、各自の防災対策や防災関連制度を確認しましょう。

また、若い世代への周知啓発、注意喚起もよろしくお願い申し上げます。

※ 1. 17は忘れない ひょうご安全の日公式サイト ⇒

<https://19950117hyogo.jp>

※ 日本損害保険協会「そんぽのホント」 ⇒

<https://www.sonpo.or.jp/wakaru/seminar/kaisetsu/004.html>

※ 南海トラフ臨時情報に関すること ⇒

<https://www.pref.shizuoka.jp/kinkyu/nankaitorahu.html>